

**結核蔓延の脅威 ～ハイチ地震での日本人の活躍～**

ハイチを襲った大地震発生から一週間が経ち、世界各国が大規模な支援を表明する中、食糧や医療品などの救援物資が被災者の手元によく届き始めたばかりである。

日本からも国際緊急援助隊医療チームが派遣され、一員として長崎大学熱帯医学研究所の山本太郎教授(元外務省職員)も現地入りした。03年ハイチに赴任し感染症対策を行った経験もある国際保健のエキスパートである。

ハイチは地震発生前から結核やエイズといった病気がまん延しており、公衆衛生上の脅威は今後一層高まる。山本教授も大地震による交通網の遮断が長期化することで、患者の症状悪化が懸念されると指摘している。また、援助要員の感染対策も同時に考えなくてはならない。

一人でも多くの命を救うため、今こそ日本の経験を生かすときである。86年前の関東大震災発生後、“世界”は日本を見捨てることなく、当時の独立国57ヶ国のうち50数カ国から現在の価値で約1400億円にもものぼる救援金が寄せられた。日本政府として世界に向けて恥ずかしくない支援を心からお願いしたい。

日本リザルツ 白須紀子  
三浦大紀  
職員一同



リザルツは、政治家やメディアと協力し、貧困に苦しむ人々の声を政策に反映させ、「貧困と飢餓のない世界」を創ろうと活動している国際市民グループ(NGO)です。日本の他、米国、カナダ、英国、フランス、豪州、ドイツ、メキシコなどで活動しています。日本リザルツは1989年の発足以来、ODA(政府開発援助)政策において、貧困削減への費用対効果が高く、且つ、顔の見える援助政策について、政府に提言しています。リザルツのユニークな活動方法は、草の根の市民から、国務長官のヒラリー・クリントン氏、経済学者ジェフリー・サックス氏、元南アフリカ大統領ネルソン・マンデラ氏など世界の著名人達に至るまで、幅広い層の支持を得ています。マイクロクレジットでノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行のムハマド・ユヌス氏は、日本リザルツの名誉顧問です。